

幾たびも

山田真砂年

水平といふしづけさや代田べり
青田風一人で歩く畦広し
魚にも目覚めのありて青時雨
麦熟れて畑もやもやしてゐたる
皐月富士ひつきりなしに新幹線
喉元にこゑあり柿若葉眩し
若葉して空のせせらぎ聴きゐたり
躑躅明るし昭和が歪む硝子窓
二三日待てば極楽蓮の池
蓮ひらく濁世と言うたではないか
夏草や人を信じぬ山羊の貌
くちなはの流るる川やささ濁り
黄土ゆく旅にしあれば麦の飯
万緑や笑窪のやうに池閑か
幾たびも雲過ぎりけり柳蘭
とんばうの木陰より出て池の上
転ぶ子も寝転べる子も大緑蔭
腹を這ふ蟻王のごと爪弾く
雨雲は海より来たり海紅豆
井戸水に喉を潤し海水着